

価値創造を実現する「6つの資本」とマテリアリティ

保土谷化学グループは、中期経営計画「コード2030」を策定する過程で、経営理念に基づいた事業活動から経営における重要課題を特定し、具体的なモニタリング指標を設定しました。

これらのモニタリング指標は、「コード2030」の基本戦略の前提となっていることから、「2030年度の目指す姿」とともに、中長期的な事業課題として全社を挙げて取り組んでまいります。

	資本	現状	マテリアリティ	強化策	モニタリング指標	目指す姿	貢献するSDGs
STEP 1. 社会への影響が大きい外部環境の変化を特定	 財務資本	実質無借金で健全な状態	- オリジナリティ溢れる事業ポートフォリオ - PBR1倍割れ改善	- 成長・基盤投資の拡大 - レバレッジの活用 - 適時適切な株主還元施策の実施	ROE DOE	非連続な成長により、強固な稼ぐ力を確立し、累進配当を通じ2031年3月期にはDOE3.0%以上の株主還元を実施	
	 人的資本	- エンゲージメント向上施策 - 女性管理職比率 13.0% (連結)	- 人的資本経営の高度化 - 組織の多様性の向上	- 企業価値向上と成果・役割に連動した人事・処遇制度の導入 - 多様な人材が能力を発揮できる柔軟な就業環境の整備 - 高度専門人材、高スキル人材採用の積極的取り組み	エンゲージメントスコア 女性管理職比率 男性育児休暇取得率 有給休暇取得率	「心理的安全性」「ビジョンへの共感」「成長機会」「評価と報酬」のバランスが適切な状態の実現 - しなやかさと強靭さを併せ持つ豊かな企業文化の実現	
STEP 2. 外部環境の変化による事業への影響を特定	 知的資本	- 有機合成・超高純度精製技術などのコア技術 - 新製品売上比率向上を志向	- 技術優位の維持 - 次世代の基盤技術の構築、新規事業の創出	- 核酸医薬分野・半導体材料での開発営業強化 - オープンイノベーションの展開 - 研究開発でのDX推進	売上高研究開発費比率	- 社会に役立ち、会社の利益に貢献する革新的な新製品と新規事業の創出 - 独創と共創で市場変化に迅速に対応できる開発力	
	 製造資本	国内外工場 5拠点	- 製品・化学物質の安全確保 - 高効率な生産体制の確立	- 既存製品の安定生産 - 国内生産拠点の再構築 「AI」「データ活用」等による「スマートオペレーション」の推進 - 戦略的な先行投資でタイムリーな生産体制を構築	戦略的設備投資	- 安定生産 - DXによる予知保全と高効率な生産体制	
STEP 3. 保土谷化学が解決に向け取り組むべき課題を特定	 社会・関係資本	- ステークホルダーとの創業からの信頼関係 - 調達ガイドライン遵守	- 製品の価値および信頼性の向上 - 健康経営・労働安全衛生の推進 - 人権尊重理念の実践 - コミュニティへの貢献	- 品質保証体制の維持・推進 - 労働安全衛生の維持・推進 - サプライチェーン全体で責任ある調達 - 人権尊重の継続的推進 - コーポレート・ガバナンスの充実 - コンプライアンスの浸透 - リスクマネジメントの徹底	品質トラブルゼロ 労働災害ゼロ 法令違反ゼロ FTSE Russell評価 (人権と地域社会：4.0) 地域貢献活動実績	- ステークホルダーとの共創による価値創造 - より透明性の高い、監督機能の充実と執行機能の強化を両立するガバナンス	
	 自然資本	- エネルギー起源CO₂排出量 19,358t-CO₂ - エネルギー原単位 - 取水量・排水量 - 廃棄物量	地球環境の保全	- 水素社会対応 - 製造プロセス効率化 - 環境に優しいモノづくり (技術・サービス・製品)	エネルギー起源CO ₂ 排出量 エネルギー原単位 取水量・排水量 廃棄物量	地球環境における未来の持続可能性の向上	